

場所・面積	大分県日田市 1.64ha	
管理目的	適正な間伐林として維持しつつ、憩いや環境教育、レクリエーションの場、J-クレジット創出地として、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的。	
サイト概要	大分県日田市に位置する丁寧に手入れされてきた森。スギの大木、自生する広葉樹など多様な生態系が広がっている。憩いの場、環境教育の場として活用をしてくており、沢を流れる水は筑後川の源流となる。 大分県の県立自然公園「津江山系県立自然公園」として指定されており、今後はサステナビリティ観光として「魅せる森づくり」を進めていく。	
土地利用の変遷	従来から田島山業株式会社が、自然環境を活かしつつ適切な間伐により、森林として管理している。正確な把握はできていないものの、田島家は鎌倉時代から当地で森を守ってきたと言われている。	
サイト周辺の環境	周辺の「津江山系県立自然公園」は16,246haに及び、釈迦岳、御前岳、酒呑童子岳、渡神岳など峻険な山岳を中心とする公園で、ブナ、ミズナラ、シオジなどの原生林と渓谷美を誇るとともに展望もすぐれている。また、大分県下で最も雨の多い地域の利を生かした人工林のスギの美林も見られる。	
アピールポイント	一般市民や企業との交流を重視しており、弊社に来社頂く折に合わせて、水源としての紹介や、森林の管理に関する環境学習の場としても活用している。スギ人工林を適切に間伐を実施することで、大木に育てつつ、林間では自生する広葉樹を残し、生物多様性が保たれるよう努めている。	

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

地域史によると、田島家は鎌倉時代から当地で森を守ってきたと言われている。江戸時代、日田は天領として幕府に管轄されており、幕府の植林奨励によりスギが大量に植えられてきた歴史を持つ。

サイトは 林業施業地として従来から田島山業(株)が管理してきた森林地帯。適切な間伐を実施したスギの二次林・人工林(写真)であり、下層植生に富んでおり、沢が流れ、生物多様性を保全している。

【主な植生】

江戸時代(推定)からスギが植林され、持続的に維持管理されてきたスギを中心とする森林。間伐を繰り返したことで、スギの間に自然と広葉樹が育ち、下層植生にも富んでいる。

【確認された主な動植物】

- 植物：高木はモミ、ハンノキ、ネムノキ等。下層植生はイヌザンショウ等の低木類、ウツボグサ、ドクダミソウ、ケキツネノボタン等の草本類、ハリガネワラビ、ツルハシゴケ属等のシダ・コケ類等。
- 動物：イノシシ、ノウサギ、鳥類、カワトンボ等

今後、東京大学、大分大学、大分県等と連携して、生態系の調査を実施する予定。



写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：適切な間伐を実施したスギ林。下層植生に富む。



写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：サイト内に流れる沢（筑後川の水源）²

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは 林業施業地として従来から田島山業(株)が管理してきた森林地帯。

■供給サービス

サイト内の湧水群は、古くから地域の飲料、水田耕作に利用され、また筑後川の源流であることから、下流域の生活や工業活動を支えている。また、適宜伐採を行うことで、木材供給を担っている。

■調整サービス

J-クレジット制度において、当該森林を対象地を含め、カーボンのクレジットの創出を行っている。また、適切な間伐を実施してきたことで下層植生に富み、水源涵養機能を果たすことで、水源林として降雨時に自然のダム機能を担っている。

■文化的サービス

適切な間伐を繰り返してきた大木が育つ森で、癒しや健康の場としての利用を行っている。

【主な植生】

江戸時代(推定)からスギが植林され、持続的に維持管理されてきたスギを中心とする森林。間伐を繰り返したことで、スギの間に自然と広葉樹が育ち、下層植生にも富んでいる。

【確認された主な動植物】

- 植物：高木はモミ、ハンノキ、ネムノキ等。下層植生はイヌザンショウ等の低木類、ウツボグサ、ドクダミソウ、ケキツネノボタン等の草本類、ハリガネワラビ、ツルハシゴケ属等のシダ・コケ類等。
- 動物：イノシシ、ノウサギ、鳥類、カワトンボ等

今後、東京大学、大分大学、大分県等と連携して、生態系の調査を実施する予定。



写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：適切な間伐を実施したスギ林。下層植生に富む。



写真の撮影年月：R5年4月

写真の説明：サイト内に流れる沢（筑後川の水源）³

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>森林経営計画に基づいた森林施業/管理を行っていく。</p> <p>森林の持つ多面的な機能の発揮策については、下層植生の生育を促す管理手法として、間伐等を実施するにあたっては、作業上障害となる下層木を除いては極力残し、生物多様性、治山治水、CO2吸収機能向上のための事業を推進する。</p> <p>木材の生産のみならず、多面的な機能を重視した森林づくりに努める。そのための方策として、経営上においては、皆伐は極力抑えていくが、風害倒木林分、成長の望めない林分等が見られるところは改植を行い、適地適木により広葉樹等も植栽する。</p> <p>長伐期を目指した間伐においては、生物多様性と公益性重視の観点から、林内照度向上と地力改善の管理手法を用い、その際、林縁木、谷筋、尾根筋に現存する広葉樹等は極力保存し、複合的な機能を総合的に発揮させるための森づくりに努める。</p> <p>森林経営計画内の申請サイトについて、以下の管理を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1年に1回程度、エリア内の巡視を行い、人為的な攪乱が生じていないことを確認する。 ➤ 湧水について、水生生物の生息に適した環境を維持する。 ➤ 適宜間伐を行い、下草が繁茂する環境を維持する。 <p>【脅威への対応】</p> <p>周囲の人口減少に伴い、シカの個体数が増加しており、シカの侵入によるスギの樹皮がはがされる被害が増えている。現在は、猟師の協力により被害を出来る限り抑えている。</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>スギ、ヒノキ等の立木の育成状況、水源・沢の状況の調査 生態系の調査</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>サイト全域</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>現地での踏査</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>1年に1度</p> <p>【実施体制】</p> <p>サイト管理者にて実施し、適宜連携団体（企業等）・有識者（大学等）から助言を頂く。連携団体であるLINEヤフー株式会社とは参加型のモニタリング調査を実施予定である。</p>